

# Bun voya!

越前市文化センターだより

Vol.1 2018.summer

文化センターの「つぶやき」ならぬ「ぼやき」で文化センターへの旅を…

あなたに聞きたい!



奥田健雄さん

記念すべき第1回目の「あなたに聞きたい!」は、越前市文化センター・ジュニア合唱団「このとりの」の奥田健雄さんにお話をお聞きしました。

文化センター(以下文)現在、「このとりの」の団長をして下さっています。最初、最初に団長をお引き受け下さった時の思いをお聞かせください。

奥田健雄さん(以下奥)中高大学とずっと合唱をしていて、合唱部の顧問になりたくて教員になったのですが、なってみたら女性の先輩が既に合唱部の先生でいらっしやって「あなたは吹奏楽部ね」ということ…。最初、吹奏楽部はもともと学校行事くらいの演奏しかしていなかったのですが、連合音楽会に出ないといけない!ということになって。それで吹奏楽の勉強をすることに。

嶺南の方に有名な先生がいらっしやってそこへ通うようになって。習った通りに指導したら、とんとん拍子に代表に選ばれて。

文:吹奏楽の第一人者というイメージがありますよね。

奥:吹奏楽は盛んだけど、中学校の合唱部があるのは市内に一枚だけで、合唱人口が多くない。でも子どもたちの中には歌いたい子が何人もいて、歌う場があるといいなあと思っていた時にお話を頂いたのと、これは真面目な話で(笑)吹奏楽部を指導しているときに越前市文化センターには何十年もお世話になっていて何か少しでもお役に立てることがあれば…と。この二つの理由で引き受けました。

文:頭が下がります!ところで、皆さんの練習を聴いてすごきれいな声だなあと感動しているのですが、今後、ジュニア合唱にこうなって欲しいなあとという思いがあればお聞かせ下さい。

奥:二年目二年目まではなかなか喉が開かなくて声が響かせられないというか、声を開放できていなかったのですが、天勝(まゆみ)先生や辻(友美)先生のご指導で段々素直に声を出せるようになってきているし、それに加えて自分の中で、ただ声を出すのではなく、「よりよく響かせよう」とか「より表現力を増そう」とかいう意欲を先生方が引っ張り出そうとしてくれますね。それに子供たちが応えようとしている。その指導者と子どもたちの良い関係があるので伸びてきていると思います。

子どもたちがやりたい!というところが、例えばオペレッタだとか、歌プロジェクトの何かを見せたいとか:子どもたちの意欲を持たせるような何か仕掛けをしていって実際にそれができるようにするといいなあと思っています。

でもあんまりこうしなさい!というのもおかしいし、好きなパターンでやってみよう。たまに人前でやるのも伸び率がぐんと上がるのでよいですね。今は無理なく取り組めるサイクルになってきていると思います。練習を積み重ねてそこでたまったものを発表するのがよいですね。ステージ発表のためだけに詰め込まないといけなくなるかと面白くなってしまうので、「詰め込まない」のも無理なく自然に嫌にならずに続けていけるコツかなあと。

まずは歌いに来てくれることが好ましくて、どこかで聴いてほしいなあと子どもたちが思っていて、お客様がそれ聞いてくれて…というのが良い循環になっていくと思います。

何よりも先生方のにこやかな指導とか、すかさず褒める!が良いです。前と変わってなかったら褒める、普通でできていたら褒める。

奥:なんか子育てに通じますね。  
文:そう、普通に起きてきたら褒めるとかね。それって偉かったんだよ。

奥:普通にできたら褒めて、ちよつとでも進歩したらめっちゃくちゃ褒めてほしいな。そうすれば気持ちも盛り上がるっていくし、こうすればこう認めてもらえるという「認められ感」にもつながっていくから、それを先生方が上手につかんでいるなあと。僕はそれをつかむのに三十年以上かかったけど(笑)

文:褒め上手:なれないな、いつも怒ってばかりです。

奥:やっぱりね、子どもは白々しいとわかってしまう。本気で思っていないと、それでそのタイミングも大事。それがこのとりの先生方は上手。ぱつと表情が変わって。子どもたちも本心で言っているなどわかる。そういったところが良いんじゃないかなあ。

文:本当に子どもたちは楽しそうにしていますよね。  
最後に文化センターでの催しでこれは思い出に残っているなというものがあれば教えて下さい。

奥:文化センターのどの催し、でもないけど、僕らの若い頃は文化センターの職員さんで怖かったのね。技術の人なんか特に。エヘン!と気難しくて、僕らがビクビクしながら使わせてもらっていたんだけれど(笑)、近年は使う人たちの身になって考えてくれて、すごく当たりがよくなって、一生懸命やってくださるのがわかるので。より良いものにしてほしいという気持ちが伝わって、それがありがたいですね。外装、内装がきれいになったのもあるけれど、スタッフの対応がすごくプラス思考になって、使う人ファーストになってきてくれる。どの催しかというとよりそれが一番印象に残っています。

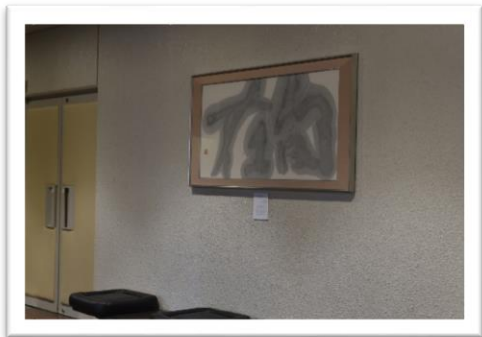
文:わ!ありがとございます。すりごまがいっぱいできそう(笑)  
合唱の話から子育てのコツ(??)、最後は文化センターへのありがたいお言葉も頂きました。

越前市文化センター・ジュニア合唱団「このとりの」は歌が好きなお子もたちをいつでもお待ちしています。お気軽に文化センターまでお問い合わせください!

越前市文化センター管理棟1階ロビーに書が飾られているのはご存知でしょうか?この書は旧武生市生まれ、武生東小学校を卒業した書家の小木太法氏によって書かれたものです。

書道界の希望に立っているとも評され、様々な書に通じた小木氏が自身の作品の評価について残した言葉があります。

「自分で書いたものの中心にあって要のところに立ち、見る人の立場で観よう。読むのは次でいい。読むのもその字の線や形によって音階をつけ、感情を出して読むといい。そして読んで一層よくみえたものはいいでしょう。ここではじめて価値が出てくるのが書ではなかろうか。」 54年7月(小木太法1981『筆とエンピツ』)



### 【作品について】

画面いっぱいに淡墨がにじむ『自在』の文字が右から左に書かれています。同氏の作品には軸装がなされた『自由』もあり、同じく淡墨のにじんだ書風となっています。

小木氏が好む墨色は濃墨、にじまない墨を基本と考え、最終的に作品が青墨を用いたものになるとしても、まずは濃墨から出発して黒と白の空間を考えるそうです。にじみ、かすれが加わることにより空間に締りがうまれる、そのため青墨も用いると語っています。

越前市文化センター学芸員 堀井峻介



## 松竹大歌舞伎

おうみ かね そがもようたてしの ぐしよぞめ ぐしよのごろぞう たかつき  
・近江のお兼 ・曾我綉俠御所染 御所五郎蔵 ・高坏

日時: 2018年7月22日(日) 12:30~、17:00~ (昼夜2回公演)  
出演者: 尾上菊之助 坂東彦三郎 中村梅枝 中村萬太郎 中村米吉  
市村橋太郎 市川團蔵 ほか  
入場料: 一般 7,200円 越の都ホール友の会 6,700円 当日 7,700円



もっと歌舞伎を楽しみたい!なら...

### 歌舞伎プレセミナー 6月29日(金) 19:00~

講師: 葛西聖司 (アナウンサー・古典芸能解説者)

7月22日(日)の「松竹大歌舞伎公演」に先駆け、歌舞伎の基礎知識や上演演目のみどころなどをわかりやすく解説する事前鑑賞講座を開催いたします。

入場料: 友の会会員様 無料 (整理券あり、要申込み)  
一般 500円

定員: 200名 ※申し込み先着順



越前市文化センタージュニア合唱団

### このとり日記

平成30年6月

いっしょにうたおっせー!



6月9日(土)

4期生入団式 3人の新入団員をむかえました。

練習した歌で歓迎しました。一緒に休み時間に花いちもんめで遊びました。

今月歌っている曲は「トゥモロー」「地球の仲間」「未来への行進」「なかまのうた」「コスモス」「ビリーヴ」「翼をください」「大切なもの」です✿

もっとなかまがふえるといいなあ。



## 平成30年度 越の都ホール友の会 会員募集中!!

会員期間: 平成30年4月1日  
~平成31年3月31日  
年会費: 1,000円

### ◇友の会特典◇

- ♪越前市文化センター及び越前市いまだて芸術館が主催する公演のチケットを一般発売前に予約することができます。
- ♪両館が主催する公演のチケットを割引します。  
(1公演につき2枚まで。割引額は公演により異なります。)
- ♪両館主催の公演のご案内をいたします。
- ♪お越し頂いた公演数によってプレゼントがあります。  
スタンプ3個で文化センター2F ジョカトーレコーヒーチケット  
スタンプ6個でジョカトーレデザートチケット  
今年は更に!! スタンプ10個で次年度の映画上映会チケットをプレゼント!

お申込み・お問い合わせは 越前市文化センターまで